

資料館 だより

Miyako
Kitakamisanchi
Museum of Folklore

No.31

宮古市北上山地民俗資料館

〒028-2302 岩手県宮古市川井 2-187-1
TEL. 0193-76-2167 FAX. 0193-76-2933
<http://kitakamisanchi.city.miyako.iwate.jp>
令和 7 (2025) 年 3 月 31 日発行

◆開館 30 周年記念企画展

「北上山地民俗資料館の30年～調査活動のあゆみ～」開催 10/1～3/30

11月1日に開館30周年を迎えたことを記念して、第27回企画展として開催しました。当館の30年のあゆみ、主に開館20周年からこれまでにやってきた活動について、3つのテーマに分けて紹介しました。

テーマの1つ目は旧小国中学校を利活用した当館小国分館の活動です。小国分館は平成16年度で閉校となった旧小国中学校の施設を利活用して、旧川井村で収集された資料を収蔵していました。その後、平成29(2017)年に現在の宮古市の旧市町村(旧宮古市、旧田老町、旧新里村)で収集された有形民俗資料も一括して管理することとなり、小国分館への移設作業を行いました。現在は、集約した資料についても活用に向けた整理作業を行い、あわせて年2回行うイベントで収蔵資料を公開する取り組みを行っています。

2つ目は「小国分館友の会」の活動です。「小国分館友の会」は当館の活動に協力してくださるボランティア組織で、平成25年に結成、現在は約40名の方が参加しています。主に小国分館で行うイベントの運営や体験学習、そして昔の道具を使った実演や調査記録など多岐にわたってご協力いただいています。昨年度、結成から10年の節目を迎えました。このたびの展示では、活動の様子が分かる写真や、年1回活動の報告をしている会報も掲示して紹介しました。

3つ目は小国分館に移設された資料の中から漁具資料の調査について報告しました。当館は開館から北上山地の山里の暮らしや仕事に関わる資料を収集してきましたが、旧宮古市や旧田老町の沿岸部で収集された資料

が加わりました。移設した資料のうち、これまで聞き取り調査や実測図作製の経験が全くない、海での漁に使用された漁具について資料整理を進めることとしました。目録を作成し、実測図の作製や聞き取り調査を行いました。その内容をパネルにして紹介しています。

また、この展示の内容や漁具のリストは、このたび作成した『開館30周年記念誌』でも紹介しています。記念誌には名誉館長の名久井芳枝先生と小国分館所蔵資料の活用についてご指導いただいている名久井文明先生からご寄稿いただいた論文なども掲載しております。詳しい内容や販売については当館までお問合せいただきますようお願いいたします。

当館はこれからも地域の方々と協力しながら、昔の道具に込められた知恵や工夫を伝える活動を続けていきますので、是非、見学やイベントにお越しください。



展示の様子



「小国分館友の会」の皆さんによる[唐箕]の実演

◆「地域の魅力再発見～門馬地域編」

今年度、開館30周年を迎えることを記念して企画しました。内容は、市内各地の地質、植物、歴史、産業などを、現地でそれぞれの専門家から学ぶ、というものです。

7月18日には13名の参加者が、旧平津戸駅の近くにあるアイオン台風で壊された道路の復旧記念碑や、氷河期の残存植物で岩手県と長野県でしか確認されていないハナヒョウタンボク、去石地区の名前の由来となっている去石の大岩、府県道盛岡宮古港線時代の親柱や里程

標など11か所を見学したり、早池峰山や兜明神岳を擁し、閉伊川の源流



去石の大岩について解説の様子

域でもある門馬地域の地質についての講話を聴くなど、それぞれの講師から学びました。

続く9月14日には同じ門馬地区で、近世の街道をく

まなく歩いてその道筋を詳らかにしている研究者から宮古街道について学びました。門馬地域は区界峠で盛岡市に隣接しています。盛岡と宮古を結ぶ街道は、現在の国道と同じところもあれば、時代によっては岩泉町との境の稜線を行くルートだったり、険しい崖沿いを行くところもありました。実際に昔の道を歩きながら石碑や橋などを見学し、講師から解説を受けました。街道随一の難所とされた大峠では、かつては急峻な山道を徒歩で越えていたことを知り、橋やトンネルで安全に通行できるように整備されたことの有難みを知りました。

この事業は、宮古市が策定した「文化財保存活用地域計画」に関連した事業でもあり、当館では旧川井村、旧新里村を担当します。市内にある未指定を含めた文化財について広く知り、活用してもらおうというもので、成果は地域の見どころや学習ポイントをまとめたマップにまとめていきます。今年度の門馬地域を皮切りに、順次、各地区での学習会を計画しています。是非、ご参加ください。

◆ボランティア研修会開催

巻頭でも紹介しましたが、当館にはイベントや体験学習などにご協力いただいているボランティア団体「小国分館友の会」があります。その研修会として、7月10日に平泉町と奥州市を訪れました。

平泉町「平泉世界遺産ガイダンスセンター」では職員の方からひとつひとつ分かりやすく解説をいただいたき、また、「平泉文化史館」では閉館中にもかかわらずご担当の方から展示室をご案内いただき、貴重な資料を見学することができました。そして奥州市「正法寺」では、単頭老師様にご案内いただいて貴重なお話を拝聴することができ、大変有意義な時間を過ごすことが出来ました。



「平泉世界遺産ガイダンスセンター」にて

◆第5回「小国分館水車の畑まつり」開催

10月13日、小国分館水車の畑まつりを開催しました。友の会の皆さんによる水車の稼働や、今年度新たに加えた稲の脱穀体験コーナーでは、[足踏み脱穀機]や[千歯こき]、[唐箕]等の実演をしていただき、子どもから大人の方まで楽しく体験することができました。

さらに、かわいい元気社の皆さんにご協力いただいたの刃物研ぎコーナー、鈴久名こだま会の神楽栄子さんを講師にお願いした

郷土食講座、地元の里の駅おくと道の駅やまびこ館からの出店、やまびこ館や鈴久名こだま会にご



「水車の畑まつり」脱穀体験の様子

協力いただいたのおふるまい、そして当館の体験メニューや館内クイズ&スタンプラリーも加えて、盛りだくさんの内容で行うことができました。

◆伝統的食文化伝承活動講座を開催

「がんづき作り」(5月22日)

今回のメニューはこれまで開催された参加者へのアンケートで要望が多かった「がんづき」に挑戦しました。講師は、地元の川内やまびこ会の皆さんです。参加者は、ふっくらと仕上がるポイントや基本的な作り方のコツを教わりました。ほかにも、キビ粉を混ぜた作り方も教わり一緒に作りました。30分程蒸すと、満月のように大きくふっくらとした「がんづき」が完成しました。試食では、昔ながらの優しいホッとする味を堪能しました。



「がんづき作り」の様子

「マイタケおこわとひつつみ作り」(10月13日)

「水車の畑まつり」開催にあたり、講師の鈴木名こだま会神楽栄子さんから教わりました。材料には、地元で採れたマイタケや凍み豆腐を使用しました。材料を入れるタイミングや混ぜ方、ひつつみの美味しい生地作りのコツを教わり、大きな鍋で調理を行い来場者に振舞いました。

参加者からは、「家庭ではなかなか沢山の量を作る事がないけれど、やっぱり沢山の方がとっても美味



「マイタケおこわ」を作っている様子

「そばきり体験教室」(12月5日)

今年も区界地域の方々に教わり、地元産のそば粉100%で作る「そばきり」に挑戦しました。一般的には「手打ちそば」と言われますが、地元では「そばきり」と呼んで

います。今年で3回目となる毎年人気の講座です。参加者からは、「初体験でしたが、結構な力仕事でした。家でもぜひやってみます。」や「そば打ちは、所によっての違いがよくわかりました。とっても楽しかったです。家でも挑戦したいです。」と感想がありました。地域の方は、そばの種まきから刈り取り、脱穀まで全て手作業で行っている様子を画像で説明して下さいました。

手間ひまをかけ大切に育てられたそば粉を使い、昔から代々受け継がれてきた技を学び、郷土食の魅力をを感じる体験となりました。



「蕎麦切り作り」の様子

「味噌づくり」(3月13・14日、4月18日)

当館では、昨年から昔ながらの味噌作りに挑戦しています。講師の映画「タイマグラばあちゃん」向田マサヨさんの味噌づくりを伝承しているフィールド・ノート山代陽子さんから全3回にわたり教わりました。

第1回は「味噌玉作り」、第2回は「味噌玉を乾燥させるワラ縄作り」、第3回は「仕込み」です。参加者は全員が味噌作り初挑戦です。1つ1つの工程がとても興味深く、これまでの味噌作りのお話を講師に聞きながら、とても熱心に作業していました。

味噌は仕込んでから2年間熟成しますが、出来上がるまで待ち遠しいですがとても楽しみです。



「味噌玉」を吊るして乾燥させている様子

◆昔のもの作り(「クルミの樹皮でカゴ作り」)

昔の技術で小物作りをテーマに有形民俗資料[つかり]や[こだし]に見られる地域の伝統的な生活技術について体験できるもの作り講座を開催しました。

講師は佐々木節子さんです。今回は、クルミの樹皮を使いカゴ作りに挑戦しました。底部、側面はクルミの樹皮をテープ状に切り揃えて、縦横交互に組む「平組み」の技法



「クルミの樹皮でカゴ作り」の様子

を使い、縁部分は箆にも用いられている「矢筈かけ」の技法を使い作りました。参加者からは、「難しく大変だったけれど、楽しかった。素敵なカゴができて良かった。」と感想がありました。

◆夏の工作教室(8月2日「水鉄砲を作ろう」)

夏休みに合わせて昔の遊びをテーマに、竹を使った水鉄砲作りなどの工作教室を開催し7人の子ども達が参加しました。作り方を教えてくれたのは、小国分館友の会の中村文男さんです。子ども達は材料の竹に水が出る穴をあけてもらい、40センチほどの細い棒に布を巻きつけて水鉄砲を完成させました。布の巻き具合水圧が変わるの

で、調整に苦戦しながらも真剣に作り、早速風船の的を狙って



完成した水鉄砲で遊ぶ様子

盛んに水を飛ばしていました。

他にも、この地域に伝わる[くめんだけ]という知恵の輪も作りました。作り方は簡単ですが、解くのが難しい遊びです。子ども達は自分で解き方を一生懸命に考えていましたが、中村さんから教えてもらおうと、とても驚いていました。最後に「空気鉄砲」の実演をしていただきました。子ども達は「ポンッ!」という良い音が響き、勢いよく飛ぶ玉に歓声をあげていました。自分たちでものを作って遊ぶ楽しさを、昔ながらの遊びを通して学びました。

◆お正月飾りを作ろう◆冬の工作教室

12月19日「お正月飾りを作ろう」を開催し、小国分館友の会の古館徳雄さんに地元の「年縄」の作り方を教わりました。実際にワラを両手でより合わせて、縄目が見え、左下がりになるよう縄目、マツの葉や昆布を飾り完成させました。他にも玄関などに飾る「しめ縄」を作り、扇や水引などで飾り付け華やかなお正月飾りを完成させました。

12月27日に開催した「冬の工作教室」でも小学生の子ども達が年縄作りに挑戦しました。小国分館友の会の皆さんに「年縄」の意味や飾り方を教わり、ワラを縄うのは難しそうですが、手のひら



「冬の工作教室」の様子

で器用にワラをより合わせ縄を作り完成させました。

そして[臼]と[杵]でもちつき体験をしました。子ども達はお米から餅になっていく様子を見て、「すごーい!」と歓声とあげていました。また実際に餅を搗き、搗きたてを試食しました。参加者からは、「自分で搗いた餅はとっても美味しかった。」と感想がありました。

◆砂金探し体験教室(7月13日)

昨年度に引き続き、住田町教育委員会の佐々木喜之さんを講師に開催しました。

初めに第一展示室の砂金掘り用具を見学した後、水槽に溜めた水の中で、砂金用のパンニング皿をゆすりながら砂金を探す練習をしました。その後、川の上流域に移動して砂金を探す体験をしました。現地は、数日前の大雨の影響で水量も多く、流れも速かったため、川岸での作業となりましたが、参加者の皆さんは講師から砂金のありそうな場所やパンニング皿の動かし方などのコツを教わりながら、真剣に砂金を探しました。

この事業は市中央公民館、川井生涯学習センターと共催で行い、閉伊川漁協組合ほか関係機関の許可を得て実施しました。



「砂金探し体験」の様子

◆ミニ企画展の取り組み

当館1階ロビーを会場に、川井生涯学習センター、市立図書館川井分室との3館が共催して開催してきたミニ企画展も今年度で4年目となりました。前年度のうちからテーマを決め、各回で施設ごとに主担当を決め、地域の歴史、文化、自然について紹介する展示内容に特色を出しています。次に展示の概要を紹介します。



「早池峰山麓の虫たち」展示の様子



「夏休みワクワク昆虫展」展示解説会の様子



「みやこの相撲」展示の様子



「みやこの文学散歩」関連事業（3月23日）の様子

タイトル（会期）	内容（来場者数）
第1回 「早池峰山麓の虫たち」 ・川井生涯学習センター主担当 ・6/1～7/15 （会期延長～8/18）	川井地域にゆかりの方8名から提供していただいた260点あまりの写真を「チョウ」、「トンボ」、「カメムシ」、「甲虫」、「カマキリやバッタ」、「ハチ」、「クモ」などに分類して展示。エゾゼミの羽化を時間を追って撮影した力作も展示。 あわせて館蔵の昭和40年代に作製されたガの標本や、地域の方が作製した「トンボのやじろべえ」、関連の書籍なども展示。 （来場者428人）
第2回 「夏休みワクワク昆虫展」 ・当館主担当 ・7/28～8/18 関連事業 7/27	元川井西小学校の校長先生で岩手虫の会の会員でもある三浦秀明さんより14箱の昆虫標本をお借りして展示。あわせて岩手虫の会会員が執筆担当している岩手日報ジュニアウイークリー「いわての虫シーズン⑥」の記事や昆虫に関する絵本や図鑑など児童、生徒向けの資料も紹介した。ほかにも借用したヘラクレスオオカブトやオオクワガタの生態も展示して来館者に喜ばれた。 関連事業の展示解説会も開催。 （来場者182人、参加者22人）
第3回 「みやこの相撲」 ・当館主担当 ・11/22～1/31	小国地区でかつて行われていた「角土俵」の奉納相撲の資料や写真を展示。あわせて宮古市に寄贈された大相撲の板番付や弓取り式の用具なども展示。 会期中には当時の角土俵について個人から寄せられた記録を展示したほか、来館者からは展示した昔の写真に写る人の名前をお聞きしたり、「相撲甚句」の歌詞や節も記録することができた。 （来場者138人）
第4回 「みやこの文学散歩」 ・市立図書館川井分室主担当 ・3/1～ ※関連事業「みやこの文学碑めぐり」3/23	市内にある文学に関連した石碑を地図でたどり、宮古を訪れた著名な作家や宮古出身の作家についてその作品などを紹介。浄土ヶ浜の宮沢賢治記念碑、鉾ヶ崎の石川啄木記念碑、愛宕の吉川英治句碑のほか、震災の教訓を紙芝居で伝える活動をした田畑ヨシさんの「海嘯（つなみ）鎮魂の詩」が刻まれている田老の詩碑や、山村の僻地教育に生涯をさげた西塔幸子の歌碑などを紹介。 関連して市内12か所の記念碑や関係施設をめぐる学習会を開催。 3月中の来場者72名、 関連事業参加者10名

◆ 館 長 コ ラ ム ◆

「開館30周年、そしてこれからも……」

昨年の令和6(2024)年 11 月に開館 30 周年を迎え、40 周年に向けてのスタートを切りました。

平成6(1994)年の開館以来、北上山地民俗資料館条例の設置目的にある資料調査、整理、研究、教育普及活動など様々な形で事業を展開してきたところです。そのなかにあって、平成 22(2010)年1月には宮古市と合併するという大きな転換期がありました。川井村の資料館から宮古市の資料館となったのです。それに伴い取り扱う資料も、旧宮古市・旧田老町・旧新里村と範囲が広くなり、特に海に関わる漁具など新たな資料も収蔵することとなりました。北上山地に暮らす人々の民俗に加え、漁業を生業とする人々の民俗も守備範囲となったのです。当然のことながら、聞き取り調査や資料収集、寄贈など多くの市民と関わることにもなりました。こういった経緯・経過は昨年の企画展で紹介するとともに『宮古市北上山地民俗資料館開館 30 周年記念誌 北上山地民俗資料館のあゆみ～有形民俗資料の活用に向けて～』にも掲載し、旧宮古市、旧田老町で収集された漁具資料の分類と一部資料の調査報告、整理状況、実測図なども収録しました。

さて、30 周年の節目を越えた今、文化財を取り巻く環境も大きく変化しました。

平成 30(2018)年には、文化財保護法の一部改正があり、「保存をしながら活用する」方向性が示され、当市教育委員会でも『宮古市文化財保存活用地域計画』(以下、『地域計画』)を策定し、令和6(2024)年7月に文化庁の認定を受けています。また、令和4(2022)年には博物館法の一部改正もあり、「基盤を強化し、交流、市民参画・連携する学習支援機関としての役割の充実」が求められるようになりました。

当館は、宮古市との合併直後に発生した東日本大震災からの復興期間を経た、平成 30(2018)年の小国分館開所を契機に民俗資料の活用をテーマとした活動への取り組みを開始したところでしたが、その後の令和2(2020)年の新型コロナウイルス感

染症拡大のため、積極的な活動ができなかった期間もありました。しかし、ここ数年は当館の位置する川井地域の歴史や文化、技術の伝承に焦点を当てた体験講座や観察会、学習会、ミニ企画展、そして今年度からは、『地域計画』に基づく「地域の宝マップ作り」に関連する事業も展開しています。また、小学3年生の学習の一環として見学、体験に来館する学校も少しずつではありますが増えてきました。

「森・川・海」を有する広大な宮古市のなかで民俗資料館としての役割、そして『地域計画』のなかでは拠点施設のひとつとして位置づけられています。開館 30 周年を越えた今、民俗資料の調査、研究、保存管理機関としての基盤の強化、学習支援機関として、地域の拠り所として、どうあるべきか再考する時期を迎えていると思います。

今は個々に発信されている市の文化財情報をまとめたホームページ作成、音声案内ガイド構築、資料検索システム導入などデジタル化、グローバル化への対応も時代の流れとなっています。そのためにも、新たに保管した資料も含めた調査、研究、整理・データ化が必須です。高齢化による世代の喪失も進んでいる今こそ早急な対応が必要と考えられます。また、当館のボランティア組織である「小国分館友の会」との協力、連携をどう図っていくかということも重要となってきます。

観光客への対応も必要ですが、当館資料の持つ重要性や学べること、学習教材資料として伝承し、活用していくことも重要なことと思います。また、認定を受けた『地域計画』を進めていくうえで、その一翼を担う活動も求められています。そのためには人的体制も含めた新たな方向性を立てていく必要があります。

最後となりますが、名久井芳枝名誉館長からいただいた寄稿文「モニュメント未来樹に託した願い」に少しでも近づけるよう、一步一步進んでいかなければならないと思っております。多くの人たちに支えられてきた30年でした。これからもよろしくお願い申し上げます。

宮古市北上山地民俗資料館長 鎌田祐二

◆布ぞうり作り方教室(11月17日)

体験学習ボランティア養成講座の一つとして「布ぞうり作り方教室」を開催しました。この布ぞうりの作り方は地元の方から教わったものです。

作り方は、はじめに2本のひもにそれぞれ撚りをかけて左縄にない、横緒を作ります。次に本体を組みます。本体の三分の二ほど布を組んだら横緒を取り付け、再び足のサイズまで布を組みます。最後に鼻緒をつけて、本体の裏側に出ている布の始末をしたら完成です。

布を引っ張りすぎると本体の幅が狭くなるので力加減が難しかったですが、コツを掴むと皆さんとても器用に進められ、それぞれ素敵な布ぞうりを完成させました。

今回は、以前この講座を受講した方が教える側として参加してくださいました。地域の伝統的な生活技術をこれからも多くの方に伝えていけたらと思います。



布ぞうり作りの様子

◆第5回小国分館神楽共演会

開館30周年を記念して開催しました。この事業は、市指定無形民俗文化財の江繫早池峰神楽と末角神楽の両保存会のご協力をいただき、小国分館の収蔵資料の公開を目的に平成30年の開所から開催しているものです。江繫早池峰神楽保存会からは「鶏舞」「寅走り」「勢剣舞」、末角神楽からは「山の神」「普勝」「水神」を披露していただきました。ゲストは大出早池峰神楽保存会の皆さんをお迎えし、「山の神舞」をご披露いただきました。

150人あまりの来場者があり、長丁場のイベントでしたが、観客の皆さんは神楽の様々な演目にじっくり見入っていました。来年度も小国分館を会場に継続してきたいと考えています。



ゲスト
大出早池峰
神楽保存会 様

◆開館30周年記念誌を発行しました

『北上山地民俗資料館のあゆみ～有形民俗資料の活用に向けて～』と題した当館開館30周年記念誌を発行しました。これまでの当館の活動報告をはじめ、旧宮古市、旧田老町で収集された漁具資料の目録を掲載し、また、その中から聞き取り調査や実測図を一部紹介しています。開館20周年記念企画展図録「もの」からのメッセージ～有形民俗資料が語る生活文化～も一部再録していますので、詳細は当館へお問い合わせください。

◆小学生の皆さんが見学に来てくださいました

小学校の社会科見学では、市内川井小、磯鷗小、高浜小、津軽石小、新里小、山口小の皆さんに見学していただき、解説や体験の対応をいたしました。

体験学習やイベント実施の様子は当館公式ホームページやフェイスブックで紹介していますので、是非ご覧ください。

北上山地民俗資料館ホームページアドレス
<http://kitakamisanchi.city.miyako.iwate.j>

◆ご協力ありがとうございました!! (50音順)

【資料寄贈】令和6年4月1日～令和7年3月31日まで
江繫地域づくり委員会様、大洞カナ様、神楽栄子様、小嶋陽子様、下澤邦彦様、千崎明様、中崎栄子様、長沢健三様、中村文男様、日野充様、藤田満里子様、古館徹子様、古館徳雄様、道又英光様、

【聞き取り調査等協力】(〃)

河内幹雄様、中村文男様、
古館忠三郎様

【宮古新道図】の貴重な
原本が寄贈されました



【宮古新道図】(2分の1複製)の
展示(第2展示室)

◆令和6年度の入館者数(人)

一般	学生	小中高	団体	合計
1390	16	184	267	1857



【QRコード】

(左)北上山地民俗資料館公式ホームページ

(右)北上山地民俗資料館公式フェイスブック



みてね♪



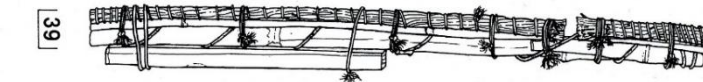
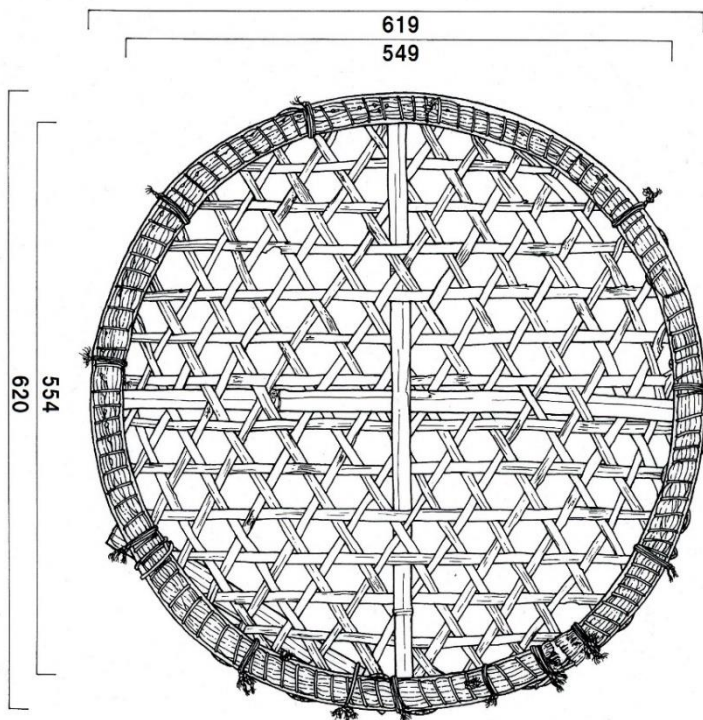
資料名 [なかご](縄かご)

伝票番号 14108

収集地 旧田老町

作図者 櫻岡咲子

※かごの内面は、外皮の表面を全て削っている。



話者 松本文雄さん、畠山俊良さん

(2022年11月記録)

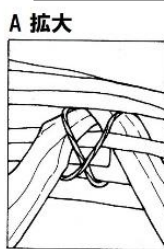
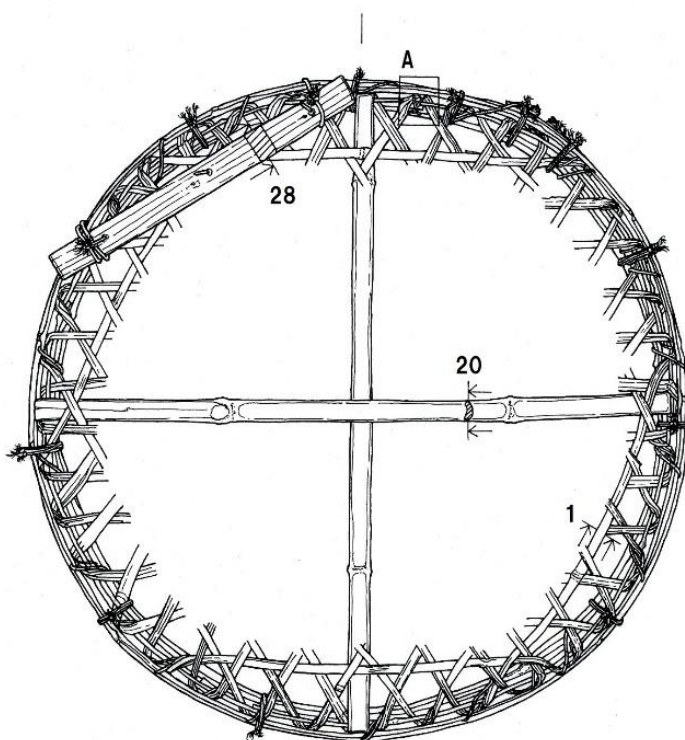
材質 竹、スゲなど

製作方法 針をさしておくかごの縁部分はスゲでなくてはならない。稲わらだと繊維がかたくて適さない。

使用方法 [ドンコ縄]の場合は、イカやサンマの切り身を針につけて餌にする。夜に海に行つて、[ピン玉]をつけて海に入れて1時間くらい待って引き上げる。

かごは縄をつけた針をさして、たくさんの縄が絡まないようにするためのもの。

備考 この[なかご]は1日に50枚も使うので、何百枚も持っている人もいた。



◆漁具資料の聞き取り調査
旧宮古市、旧田老町、旧新里村で収集された有形民俗資料は、平成二十九年に移設作業を行い、現在、当館小国分館に集約して管理しています。巻頭の開館三〇周年記念企画展の記事でも紹介しましたが、このたび、移設した資料のうち主に海の漁具について資料の目録を作成し、聞き取り調査を行ったものについて報告書にまとめました。ここで紹介する資料は作製した実測図の一例です。
『開館三〇周年記念誌』は有料にて頒布しております。詳しくは当館までお問合せください。